

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100195		
法人名	(有) 暮らしの里		
事業所名	グループホーム 暮らしの里 さくら苑		
所在地	千葉市中央区都町1078-3		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	平成24年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

暖かみのある もう一つの我が家を理念とし、入居者の皆さまが広々としたスペースの中で、生き生きと生活されている。利用者様から、とても良い所で住みやすいという言葉が頂いたり、利用者様と介護者、双方からここは明るく楽しいという言葉が絶えない。ご家族と外出、外泊しても、ホームに帰宅すると、ほとんどの方が、家もいいけど、ホームは気持ちが悪く話して下さる。入居者がその人らしく生活できるように支援している。働いている自分たちも入居者の方々が大好きで、ホームに来て皆さんにお会いする事を楽しみに、楽しく仕事ができる。入居者の能力(残存機能)を活かすように関わり対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居後、入居者の状態が穏やかに安定し、入居者本人と家族が喜んでいる姿を見ることが職員のやりがいに繋がっている。事業所のオーナーが医師であり医療連携が適切に取れることと、管理者が豊富な経験と知識を有していることで、職員が安心して困難事例にも取り組んでいる。また多様な経験と知識を持った職員が、違う視点で入居者にとって何が最善かを考えており、医師、管理者、職員、家族の連携がとれていることが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	暖かみのある もう一つの我が家を理念とし、管理者、職員が共に入居者の個性を把握し家族のように接する事で、入居者一人ひとりが家庭的で穏やかにホームと地域の中で過ごせるようにしている。	多様な経験と知識を持った職員が違う視点で利用者にとって何が最善かを考え、理念の共有と実践を心がけたケアに努めている。入居者から穏やかに「ここが一番」と言ってもらえるホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市街地の中心地ありながら、環境が良く、ご近所の皆さまには、挨拶をしながらお散歩に出かける事が多く、地域の皆さまも気軽に声を掛けて下さる。ホームの行事にも来訪して頂くようにしている。	設立してまだ日も浅いので、地域に知ってもらえるように散歩時に挨拶する、自治会に加入し可能な限り行事等に参加するなど、できることから始めている。社会福祉協議会の地域での取り組みにも参加し、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の皆さまと、可能な限りで会話を実践し ホームは清潔で明るく、認知症の皆さんを理解して頂きながら「楽しい家である」事をお話し、気軽にホームへ立寄って頂くようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在 入居者数が少なく、又 外部の刺激により 興奮する方がいる為開催していない、今年は関係者の方に 参加をお願いしている為 定期的に開催してゆきます。	運営推進会議は、まだ実施できていない。今後は計画的に実施していく予定である。	運営推進会議を実施することで職員の思いや認知症に対する理解が地域に広がると思われる。また定期的開催により、地域行事への参加や災害時の協力体制構築等にもつながることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務的な届出や質問等があるときは、いち早く連絡をさせて頂き、市の担当者からも、いろいろな情報を頂けるようになってきている。	事業所の開所に当たって、設立前から市担当者とは連携を密にし、相談している。さまざまな情報交換する中で、市担当者と気軽に話し合える関係性ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関はオートロック機能で閉まっているが、入居者が出入りする時には職員が直ちに解放出来るように周知徹底をしている。その他の拘束は利用者の安全確保の為、必要な場合に限り ご家族の同意を得て 行う場合もあるが 見直しも行う。	身体拘束については身体拘束の手引きを定期的に職員に周知し、具体的な事例を確認している。言葉や態度による心理的拘束なども、現場で気にかかる点があればその場で注意喚起し、職員全体で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加し、定例ミーティングで勉強会を開き、スタッフが虐待とはどのようなのかを改めて共有し虐待防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が、ご家族等や入居者からの相談については その都度、相談に応じて対応をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时にホームの契約の流れを説明し 疑問点を伺い、入居時には契約書等を 共に確認しながら 再度疑問点や不安を確認し理解して頂いた上で最終的に署名捺印をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見 不満 苦情は運営推進委員会等公の場で声に出しやすい環境を作り、率直に伝えて頂き、今後の運営に反映させるようにしています。契約時には契約書の中に、苦情申し立ての連絡先が有ることも説明しています。	本人や家族から引き出した意見等は、毎朝のミーティングや毎月の職員会議、日常のコミュニケーション等で共有し、事業所運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が 生きがいをもち働けるように、代表者 管理者は意見及び提案を聞き、利用者に危険、不利益が生じないものは速やかに反映している。	職員それぞれが、お互いを尊重し、日常の中で行われるコミュニケーションが充実している。短い時間で効果的にミーティングが行われ、出された意見を運営に反映するようにしている。職員の意見や提案が気軽に話し合えるミーティングや勉強会等の機会がもっと多くあると更に良いと思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、向上心を持ち誠実に努める職員については、担当分野を決定しているし 昇給もある。利用者と一緒に 喜びを共有できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加できる研修には、希望者を募り研修も仕込みをし、内外の研修参加を促している。研修後は必ず 定例ミーティングを通して 発表と勉強会を義務付けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者、管理者は同業者との交流はあるが、職員個々の同業者交流は現時点ではないが、今後の取り組み方を検討課題としている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者は、必ずホーム見学に来訪して頂きホーム案内 説明と介護方針を伝える、お試し入居やホーム行事が有る場合には参加を促して馴染みを持って頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活歴 悩み等を伺いながら、ホームでの生活をどのように対応していくかを 双方話あっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療の必要性や本人とご家族の希望を確認し、個人に合ったサービスをどの様に進めていくか 意見を出し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者に関わり、一人ひとりのその日の状態を把握し 共に充実した日々を送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が何時でも気軽にホームへ来訪出来るように「アットホーム」な環境でサービスを行い信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個室には ご自身の大切にしていた馴染みのものを持参して頂き、ご家族 友人も気軽に来訪して頂いたり、電話 お手紙 年賀状等も活用している。	入居者のことを知るプロセスを大切に、馴染みの人や場所の関係を継続できるように支援している。本人が見たい、行きたい、懐かしいといった言葉や態度を生活記録に記載し職員会議等で話し合い、行事やイベントに繋げていくようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は居室に閉じこもる事無く ホールで過ごしやすい環境を作り、職員が家族となり接しながら 入居者同士が自由に行動したり 気軽に会話が進むようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族がホームに対し相談、希望が有ればその都度対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が希望 意向を伝えられる方には、話し合いを設けたり、困難な方は毎日の状態を把握しながら 少しでも安心して生活をして頂けるようにしている。	意思を伝えられる人は少ないが、入居者が言うのを待つのではなく、職員が自ら想像し聞き出すようにしている。また入居者の行動をよく見て、その行動には必ず理由があると考え、その理由を導き出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時に 今までの生活歴をご家族から聞き 介護サービスについてはサービス提供事業者から経過報告を頂き 把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前後の 生活状況 個性を把握し 個々の能力を知り、何が出来るかを見出すよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護者の関わりの中で 必要な意見をだし て行き、介護計画を作成するように努めて行く、家族がホームへ来訪時や出会いの場では、記録ノートを見て頂き、利用者の状態を見る事で 大変感謝をして頂いている。	入居時のサマリーや以前の居宅介護支援事業所からの情報、生活支援ノートを利用し、定期的なミーティングを行いケアプランに反映させている。見直し時には全職員が「計画作成準備資料」を提出し、現状に沿ったケアプランの作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の観察経過記録を記載し 提出の中に実践、結果、気づきなどが有り、それを皆が共有することで 計画、サービスに反映するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人とご家族の希望に 出来る限り応えられるようにし、利用者に対しては日々の変化を見極めながら支援に努めている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩やホームの外で活動することで、地域の皆さまへ知って頂き、声を掛けて頂きやすい環境にしている。音楽等のボランティアも徐々に増えて 利用者に喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関により定期的な在宅診療と必要に応じて受診 主治医が提携医療機関でない場合と、ホーム提携医療機関以外の受診は ご家族同行による受診としている。	提携医療機関の内科・消化器系の医師による診療が定期的に行われ、緊急時の対応も受けてくれている。認知症の薬による体調の変化も細かく管理されていて、以前より薬の量が減少した人もいる。また、家族対応の他病院への受診の際も情報の共有を必ず行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在 看護の必要な利用者はいない。ホームには専任の看護師はいない、訪問看護との契約もしていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームに戻る時期や 状況をご家族や病院の相談員と 密に連絡をとりながら退院後の対応に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に ご家族へ伺いを立てて 終末の希望について伺い 更に入居中も経過を見ながら相談して考え方を共有している、ご本人に対しては性格や認知証の進行により確認出来ない方もいる。	契約時にホームの方針を説明し、家族の了解を得ている。入居時点で終末期のあり方について家族の希望を把握している。入居者の状態をみながら家族とも再度確認し、相談していくようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	食事等での誤嚥には定期的に対処を訓練しているが 多方面に関しては必ず、管理者や医師に確認の上、指示に基づき速やかに対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災非難訓練に関しては、消防署の立会により訓練を行っている。また、非常時を想定し地域の協力をお願いして行く。	開設したばかりということもあり、火災避難訓練は今現在1度実施した。訓練後には振り返りを行った。その結果、スプリンクラーの止め方や通報装置の使い方などを全職員に周知徹底することとした。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者 一人ひとりを尊重し、プライバシーの保護に努めている。	入居者のプライドや尊厳を損ねないように、色々な場面で声掛けには十分気を付けている。職員のなかで気になることが見受けられた場合はその都度注意を促し、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が 意思を伝えてきた時には、本人の自己決定を尊重して判断をするが、ホーム側で判断をする場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の決まりごと(体操、レク、掃除入浴、食事時間)は日々の生活リズムの為に 皆で行うが、その他においては個人の希望を優先する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみ等は 個々で異なるため 本人の意思を交えながらお化粧品 洋服をコーディネートするように心がけている、ご自分で出来ない方は介護者によって身だしなみを整える。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁等の刃物を使う機会は少ないが 可能な方のみにお願いをしている、後片付けは 毎回利用者が参加し、エプロン掛けでお願いをしている。	献立は栄養士が立てたものを参考に、職員が立てている。入居者と職員と一緒に買い出しに行ったり、出来る範囲で料理や片づけなどにも参加をしている。季節感のある献立で食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者を把握し、医師の指示により必要に応じて 摂取量、水分の補給に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼、間食事は本人の意思にて 夕食後は必ず口腔ケアを確認し実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者の状態、パターンを把握し、トイレ習慣を活かす様に誘導して快適に過ごして頂き、尿失禁、便失禁に合わせてリハパン、おむつの使用をしている。	尿意・便意を自然に感じてもらうことが大事だと考えている。日々の生活記録から一人ひとりのパターンを把握し、自立に繋がるトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は栄養士のメニューの基づき作り便秘の有る方は医師に相談して薬の処方も利用するが、水分の補給量確認や運動量で腸の活動を促す等様心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日はホームで決め、週2回の入浴日が有り個別に対応しながら入浴して頂いている。	週2回入浴の日を決めているが、夏季は頻度を多くすることもある。拒む人にも、声掛けに注意をしながら個々を尊重した対応をしている。入浴中はのんびりとした時間を利用して、会話を楽しむようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、しっかりと活動しており、ほとんどの方は良眠されているが認知証の進行等で深夜に目覚めてしまう場合はその都度対応し、常に目覚めてしまう場合は、医師と、ご家族に相談し薬の処方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更や作用により屯用の薬がある場合は薬の作用と用途を必ず申し送ると同時に利用者の生活記録ノートに記載し、更に服薬後の変化について詳細に記録するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や残存機能を生かし、ホーム内での役割や楽しみを見出すように努めている、現在まで行っている事は引き続き行い喜びとなる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩、公園散策、ドライブ、買い物等に出るだけ多く出かけている、お知り合いに言えば楽しそうに談話されている。	入居者の状態にあわせて、個別対応での外出支援を行っている。散歩、買い物などの外出は対応できているが、地域との交流や普段はいけなような場所への外出支援はこれからの課題となっている。	入居したばかりの人が多く、状態が安定するまでは難しいところもあるが、今後は検討し、計画を立てて実現に繋がっていくことを期待する。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人差により 全員の方は無理があるが、購入品の希望をお持ちで、金銭の管理能力が有る方はご自分で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの電話は必要に応じてのみであるが、ご家族、親戚、知人からの連絡時は可能な限り本人に取り次ぐようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を表現出来るように利用者とともに飾り付けを作ったりしている、お花、植物等は職員と利用者の皆さんで楽しんでいる。	入居者と作った切り紙、作品等が飾られている居間は大きな掃き出し窓で明るく、開放的である。また、テレビを囲むように配置されたソファでは入居者が自由にくつろいでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は広々としていて、ソファ、テーブル、椅子を設置し自由に利用出来るようにしている、利用者同志で気持ちが合う方は会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時に馴染みの有る物や、大切なものを持参されるように心がけている、長年利用した筆筒等は心が落ち着くようである。	家族には、入居時に以前から使い慣れたものを持って来てもらうことが本人の安心に繋がると説明している。仏壇や筆筒など馴染みの物が配置され、その人らしい居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者、関わり中で状況を知り、個々の残存機能を生かして生活出来るように自立支援を行っている。		